

2009 年度 立命館学校教育研究会

「第6回 若手教員懇談会」が開催されました



全体会での自己紹介の様子

分散会の様子

春日井敏之教授のミニ講座の様子

2009年7月26日（日）、「第6回 若手教員懇談会」が開催されました。会場の朱雀キャンパス多目的室には、校友教員、本学学生・教職員、学校教育関係者らが集い、50名以上の参加者で盛会となりました。懇談会後の懇親会においては、参加者らの交流が積極的に図られました。

全体会では、参加者全員が自己紹介を行い、近況を報告しました。その後、運営委員より「子ども・親・教師のつながり方」をテーマとして問題提起があり、小学校、中学校・高等学校、特別支援学校の三つのグループに分かれて、分散会協議を行いました。各グループでは代表者から実例報告があった後、参加者間で各学校の取り組みを紹介するなど、懇談を深めました。着任間もない教員からは、笑いあり、涙ありで、日頃の悩みを吐露する場面も見られ、同輩や先輩教員からアドバイスをもらい、「気持ちが楽になった」、「勉強になった」との声が多く聞かれました。また、それぞれに学生時代に抱いていた教師への初心に戻る場となりました。

分散会の後は、これまでのまとめとして、立命館大学文学部教授 春日井敏之先生を講師にお招きし、「教師というしごと～子ども・親・教師のつながり方～」というテーマにて、ミニ講座が開かれました。学校現場に噴出している子どもや保護者の諸問題に対して、教師はどう向かい合うべきか、先生の実体験や研究実績を織り交ぜながら、数々のヒントを示唆していただきました。先生のあたたかい人柄や他者への思いやりに満ちた講演に、参加者は強い感銘を受け、あっという間に時間は経ってしまいました。参加者からは「心にしみた」「明日からのパワーになりました！」「自分に対する課題や目標が見えました」などの感想が聞かれ、盛況のうちに閉会いたしました。

